



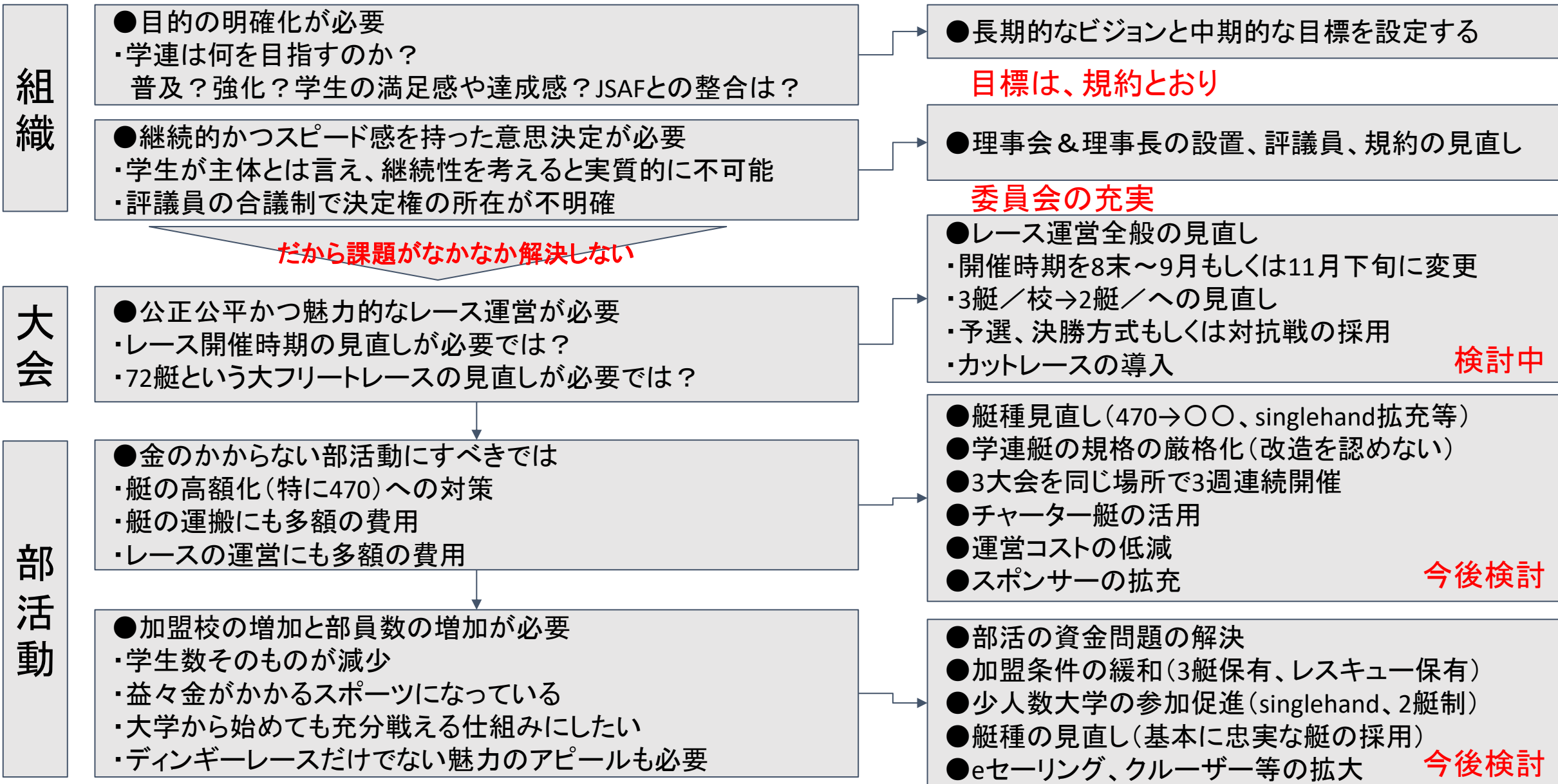
財政総務委員会

2024年11月2日 全日本学連総会

2024年11月3日 全日本学連評議会

課題

解決策(案)



全日本学生ヨット連盟の目的

【全日本学連規約より】

ヨット競技等を通じて心身の健全なる育成並びに充実、及び学生スポーツの発展並びに普及に寄与するとともに、全国の学生相互の調和、親睦を図ることを目的とする。

全日本学生ヨット連盟の課題

【財政総務委員会で洗い出した課題】

1. 全日本学生ヨット選手権大会の**出場枠検討**
→継続検討中
2. 全日本学生ヨット選手権大会の**実施時期検討**
→継続検討中
3. 全日本学生ヨット選手権大会へのカッターレース導入
→レース運営委員会で検討
4. **各委員会の位置づけ**
→事務局にて規約等の確認と必要により規約の変更

今後協議項目

5. 連盟の法人化、UNIVAS加盟検討
6. 競技にかかる費用の削減
7. 学生減少に対応するための普及活動
8. シングルハンドレガッタの活性化

全日本学生ヨット選手権大会の出場枠検討

【課題】

- 出場枠は、4年毎に見直すことが2016年の総会で決定されているが、コロナ禍だったこともあり、見直しを実施されていなかった。
- 1枠に対し水域間で2倍以上の格差が発生している。
- これまで加盟校数で決めていたが、予選大会に1～2艇での参加や、場合によっては全く参加していない学校もあり、出場校数との乖離が発生している。
- 特別枠についても、校数が少ない水域に特別枠が回ると、出場できない可能性がある。
- 出場24校(72艇)のフリートレースは公平性を保たれているのか検証が必要。(レース方法など)

【現状の決定方法】

現在の枠決めルールは以下のとおり

- 出場校数は、24校とする
- 水域加盟校数を7で割った数を四捨五入して決定
- 前年度大会の上位6校の水域に対し出場資格を割当(水域最大2校)
- 開催地枠で1校割当
- 4年に一度、枠数の見直し実施

水域	現枠数	倍率	
		470	Snipe
北海道	1	2	1.5
東北	1	2.5	2.25
関東	6	3.34	3.25
中部	1	5.5	4.5
近畿北陸	2	3.63	3.63
関西	2	3.5	3.25
中国	1	2	4.25
四国	1	3	3.25
九州	2	2.75	3

全日本学生ヨット選手権大会の出場枠検討

【検討の進捗状況】

● 水域の状況確認実施

大会出場校数

		2024年		2019年		2014年	
		470	snipe	470	snipe	470	snipe
北海道	出場	3	2	3	2	4	2
	3艇出場	3	1	3	2	3	2
東北	出場	2	2	2	2	2	2
	3艇出場	2	2	2	2	2	2
関東	出場	25	21	30	23	28	23
	3艇出場	22	20	28	23	26	19
中部	出場	7	6	6	5	6	5
	3艇出場	6	5	5	5	3	3
近畿北陸	出場	7	8	9	9	?	?
	3艇出場	7	8	9	9	?	?
関西	出場	6	7	11	9	13	11
	3艇出場	6	6	9	7	9	8
中国	出場	3	4	6	6	?	?
	3艇出場	2	4	4	6	?	?
四国	出場	?	?	?	?	?	?
	3艇出場	3	4	?	?	?	?
九州	出場	6	7	5	6	4	6
	3艇出場	6	7	4	5	4	6

加盟校数

水域	増減率	2024年			2014年以前
		加盟校数	470	snipe	加盟校数
北海道	50%	4	4	2	8
東北	30%	3	3	2	10
関東	80%	40	29	24	50
中部	67%	10	7	7	15
近畿北陸	50%	11	10	10	22
関西	56%	10	10	10	18
中国	75%	9	8	9	12
四国	71%	5	3	5	7
九州	57%	12	8	10	21
合計	64%	104	82	79	163

全日本学生ヨット選手権大会の出場枠検討

【今後の予定】

- 現ルールに則った出場校数の確認
- 出場枠の見直し
- 大会フレームの検討

全日本学生ヨット選手権大会の実施時期検討

【課題】

- ここ数年、全日本学生ヨット選手権大会が実施される11月上旬は風が吹きにくい状況が続いている。

年度	回数	開催地	470	スナイプ	備考
2023年度	88回	小戸	4／11レース	4／11レース	
2022年度	87回	柳が崎	8／11レース	7／11レース	
2021年度	86回	蒲郡	6／11レース	6／11レース	
2020年度	85回	和歌山	7／ 8レース	6／ 8レース	新型コロナウイルス感染予防のため8Rとした
2019年度	84回	西宮	4／11レース	4／11レース	

- 予定したレース数を完了した大会は無い
- 全国的に11月上旬は、風が吹きにくい
- 微風でのレースが多い



選手に良いコンディションのもと、大会を提供するためには、時期の変更も視野に入れた検討が必要

全日本学生ヨット選手権大会の実施時期検討

9月初旬に実施する全日本学生ヨット個人選手権大会の状況を調査した。
なお、様々な理由により8月や11月にも実施されていることから、7年間のデータを確認した。

年度	日にち	開催地	470	スナイプ	備考
2023年度	8/31～9/3	蒲郡	8/8レース	8/8レース	
2022年度	9/1～9/4	蒲郡	8/8レース	8/8レース	
2021年度	10/29～11/1	蒲郡	5/8レース	5/8レース	新型コロナウイルス感染予防のため時期変更
2020年度	11/27～11/29	蒲郡	6/6レース	6/6レース	新型コロナウイルス感染予防のため時期変更、6Rとした
2019年度	9/5～9/8	蒲郡	8/8レース	8/8レース	
2018年度	8/31～9/2	若洲	8/8レース	8/8レース	
2017年度	8/11～8/14	蒲郡	7/8レース	5/8レース	スナイプは2日目にゼネラルリコールを繰り返す

8月から9月初旬にかけては、シーブリーズが期待できるため、予定したレース数をこなせる大会が多かった。



9月から10月にかけては、セーリング競技に適した時期と言えることから、全日本学生ヨット選手権大会の実施時期を移動させた場合のメリット、デメリットについて検討する。

全日本学生ヨット選手権大会の実施時期検討

【アンケート結果】

	メリット							
	参加しやすい	4年生の活動が長くなる	下級生が参加しやすい	引退後の新チームづくり時間確保	安して風が吹く	日が長い	涼しくなる	運営要員の確保がしやすい
9月初旬	◎ 夏休み			◎	◎	◎		
9月中旬～下旬	◎ 夏休み			○	○	○		◎ 国スポ等で困難な場合あり
10月			○	○	○		○	○ 国スポ等で困難な場合あり
11月初旬			◎				○	○
11月下旬		◎	◎		◎			○

全日本学生ヨット選手権大会の実施時期検討

【アンケート結果】

	デメリット										
	学校を休む必要あり	学業が疎かになる	下級生が参加しにくい	引退後のチームづくりしにくい	遠征費の増	風が吹きにくい・安定しない	日が短い	猛暑	悪天候によるリスク	他の大会と開催調整が必要	運営要員の確保がしにくい
9月初旬			◎					◎	○	○	
9月中旬～下旬			○		○			○	○	○	○
10月	○ 祝日休みで無い場合あり	○		○	○	○	○		○	○	○
11月初旬	○ 祝日休みで無い場合あり	○		◎	○	◎	◎				
11月下旬	○ 祝日休みで無い場合あり	◎		◎	○	○	◎		○		

全日本学生ヨット選手権大会の実施時期検討

【今後の予定】

- 実施時期について学生とのディスカッション
- 実施時期の選定
- 変更したい際の影響確認、全体スケジュール調整